

玉露童女追悼集

二



玉露童女追悼集

江苏工业学院图书馆
藏书章

玉露童女追悼集 二

平成三年三月十八日 発行

編 著 玉露童女追悼集刊行会
発 行 金 龍 山 浅 草 寺

〒一一一

東京都台東区浅草二―三―一
電 話 〇三(三八四二)〇一八一
振 替 東 京 六・三三一〇
F A X 〇三(三八四五)六九三三

印 刷 株式会社 大塚巧藝社



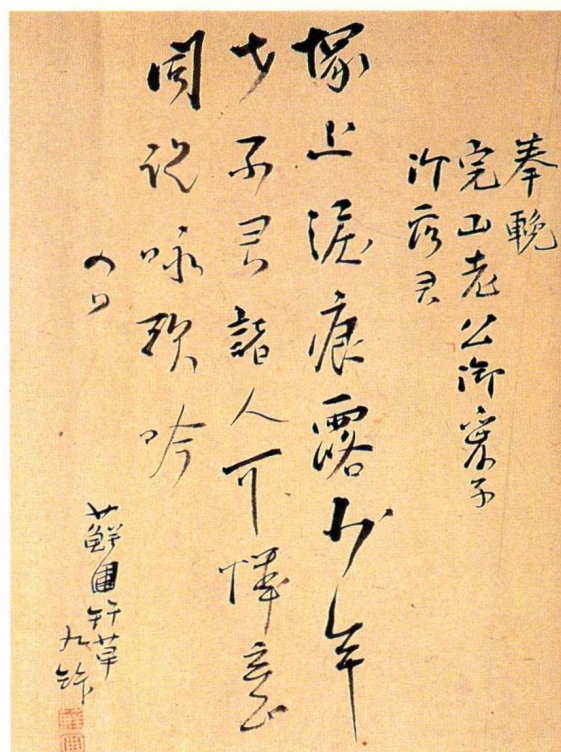
酒井抱一（等覚院）画「白鷺図」（第8巻）48頁



酒井抱一書
（第8巻）48頁



大内平左衛門（辭圃）画「猿猴图」（第6卷）37頁



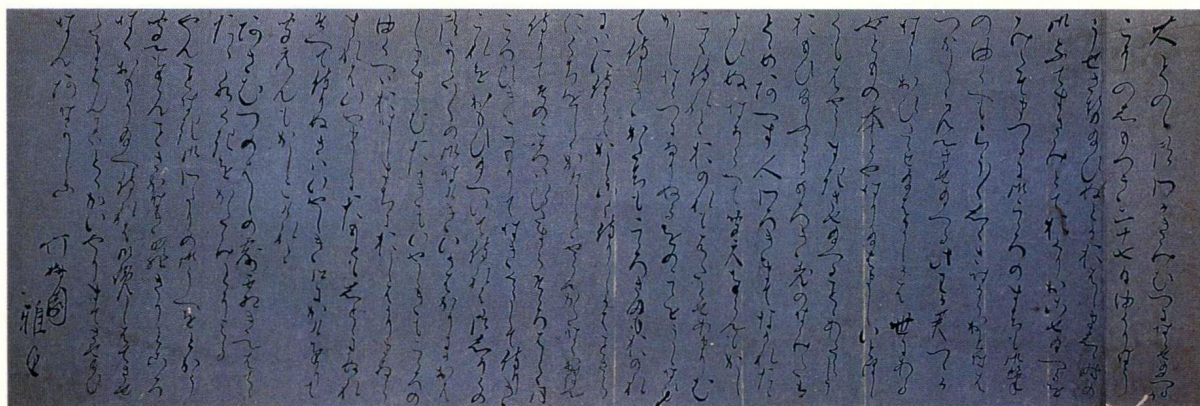
大内平左衛門（辭圃）書（第6卷）37頁



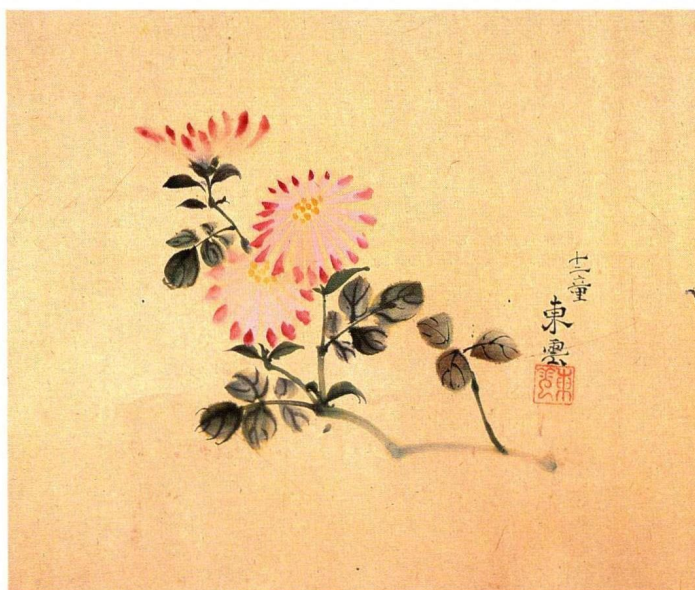
下条吟子（雲英女）画「双蝶图」（第6卷）17頁



鑑木祥蔵（雲潭）画「牡丹に双蝶图」（第6卷）14頁



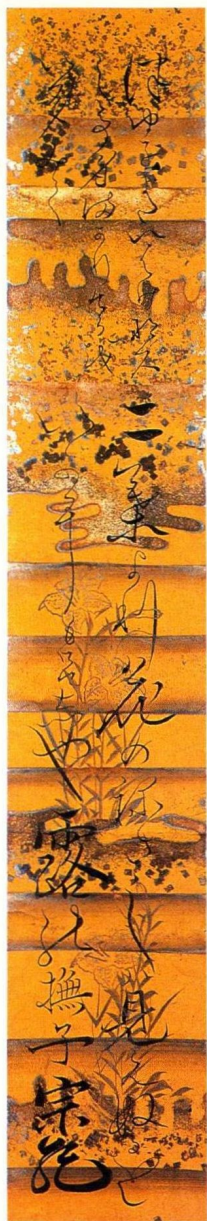
石川五郎兵衛（雅望・六樹園）書（第8巻）44頁



茂呂金平（東雲）画「菊花図」（第8巻）60頁



岸本次郎吉（春岳）画「笹図」（第10巻）91頁



伊達大膳大夫(宗紀)書
(第11卷) 109頁



佐野良甫(如水)画「蘭図」
(第10卷) 106頁



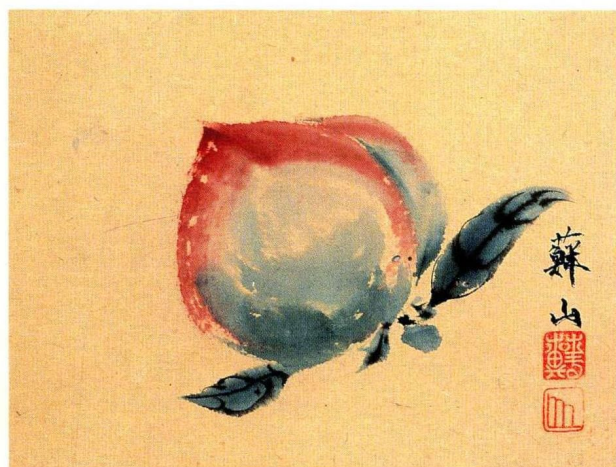
亀岳画「白梅図」(第10卷) 105頁



川戸正助画「枇杷図」(第11卷) 110頁



諏訪鎌次郎(鷺明)画「柘榴図」(第11卷) 110頁



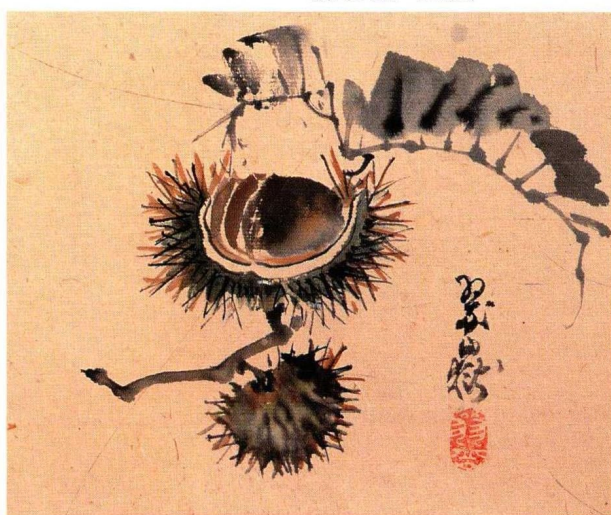
白石弘調(蘚山)画「桃果図」(第11卷) 111頁



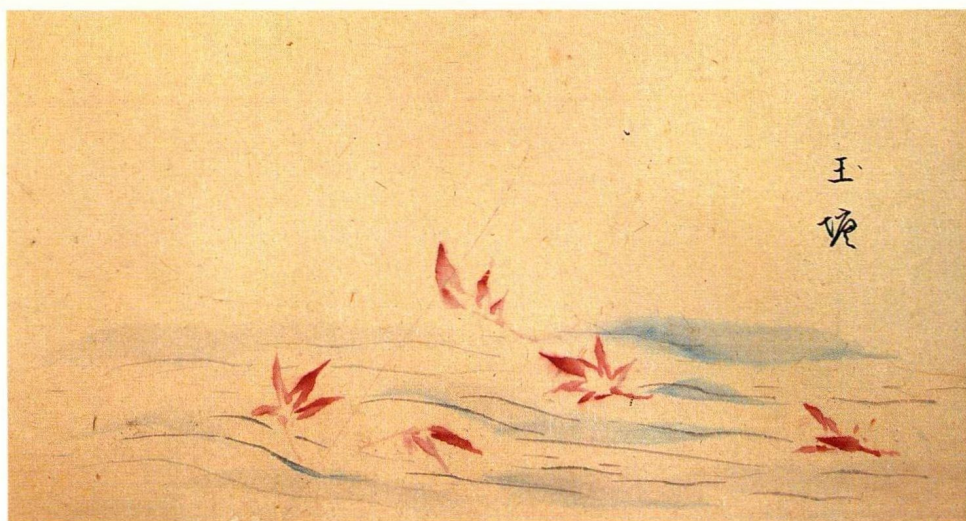
渡辺忠次郎(松台辺良)画「果実図」
(第11卷) 111頁



勢伊子(春静女)画「燕子花図」
(第11卷) 112頁



下野三郎兵衛(翠嶽)画「栗実図」(第11卷) 111頁



中山滝子（玉塘）画「紅葉流水図」（第11巻）114頁



稲村文英女計以子（紫港女史）画「擬宝珠に蝶図」（第11巻）121頁



寛新次郎（重行）書（第11巻）112頁



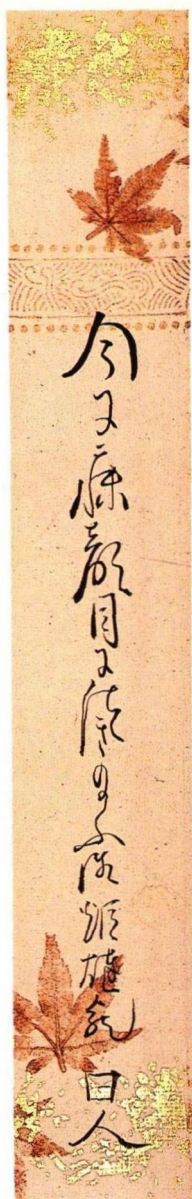
鹿島清兵衛(文岑)書
(第11卷) 127頁



桜井弥吉(曲泉義処)画「鶏頭図」(第11卷) 121頁



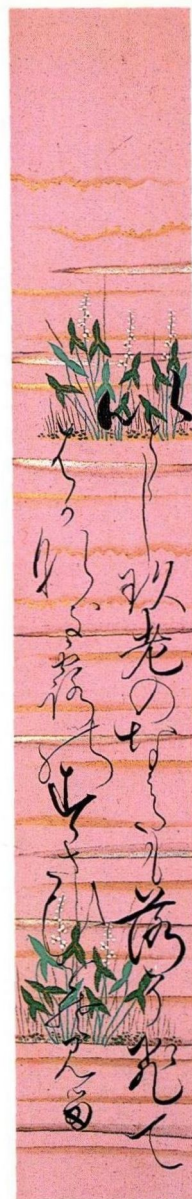
渡辺十重子(春林)画「桃果図」(第11卷) 123頁



遠藤曰人書
(第12卷)143頁



立花左近将監後室書
(第12卷)140頁



立花丹後守後室書
(第12卷)140頁

目次

凡例	口 絵	1
玉露童女追悼集		
第六卷		11
第七卷(欠)		
第八卷		39
第九卷		61
第十卷		85
第十一卷		107
第十二卷		129
あとがき	浅草寺史編集所	152
人名索引		159

凡 例

- 一、漢字は原則として常用漢字を用い、古体・異体・略体文字も現行字体に改めた。
- 一、変体仮名は平仮名に改めた。ただし、ニ・ハ・ミ・江は原本のままとした。
- 一、校訂者の注記には、すべて（ ）を付した。
- 一、当時慣用の宛字はそのままとし、明らかな誤字は傍らに正字を注記した。また脱字と思われる箇所には、（脱力）と傍注した。
- 一、虫喰・欠損・難読の箇所は、□か「」で示した。ただし、判読可能な場合は、^{（山）}□ または山^{（山）}などと傍注した。
- 一、人名を記した貼札は□で示した。
- 一、漢詩・漢文は、読み下し文に改めた。
- 一、印は、印形にかかわらず、すべて印で統一した。

玉露童女追悼集

第六卷

哀傷歌一首并短歌

宣昭

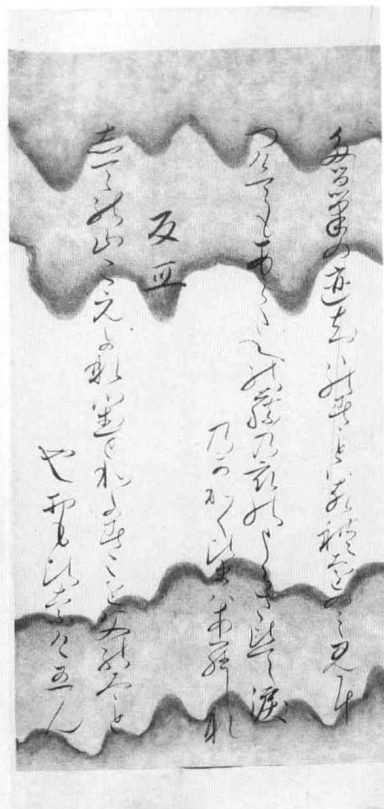
ちはやふる神よにありしあしなつちてな
 つちの神の名におひしことの如くに足をなて
 てをなてしもちゝのみの父のみことハ神等に
 ほきことまをしあかみこのひめのみことハやは
 とせにひめのみことハやち季にさきくあ
 れとていのりおきし露の命は消はてぬ
 これをなけて夕されハ袖もしとゝに明たて
 ハ声なきからしあしたつの雲井もか
 けりよもつ国人のかよハん道しあらは
 ゆきてみましをあかみこのむなしきとこ
 にとゝまれるた玉もあやな赤珠ハ色もあ
 せゆき白珠ハ光もかくれ其たまの玉のありか
 も見かねつ残るかたみハて習にかき流し

長谷川雄太郎

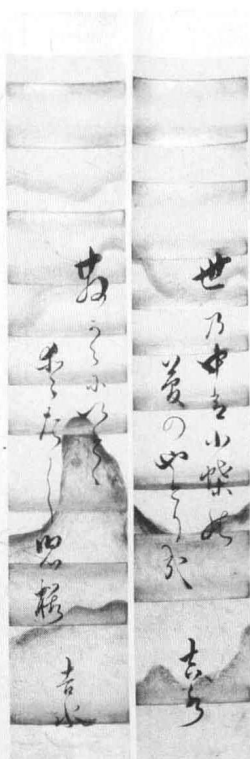
哀傷歌一首并短歌

宣昭

ちはやふる神よにありしあしなつちてな
 つちの神の名におひしことの如くに足をなて
 てをなてしもちゝのみの父のみことハ神等に
 ほきことまをしあかみこのひめのみことハやは
 とせにひめのみことハやち季にさきくあ
 れとていのりおきし露の命は消はてぬ
 これをなけて夕されハ袖もしとゝに明たて
 ハ声なきからしあしたつの雲井もか
 けりよもつ国人のかよハん道しあらは
 ゆきてみましをあかみこのむなしきとこ
 にとゝまれるた玉もあやな赤珠ハ色もあ
 せゆき白珠ハ光もかくれ其たまの玉のありか
 も見かねつ残るかたみハて習にかき流し



松平播磨守



鍋木祥蔵



たる筆の迹ちゝのみことハこれをのミみに
つけてもあらたへの藤の衣のうらさひて涙

のかわくひまハあらしな

反哥

しての山こえかなつむとわかみを父のみこと

やおもひなけかん

松平播磨守

世の中は小蝶の

夢のやとり哉

吉水

散からにいとゝ

愛たし児桜

吉水

鍋木祥蔵

(牡丹に双蝶図)

雲潭印